

## 免許更新

2021.1.22

免許更新というと、運転免許を思い浮かべる方が多いだろうか。教員ならば教員免許更新かもしれない。だとすれば、この制度が定着してきたということだろう。

私は、運転免許更新の際には、運転免許センターに行くようにしている。なぜなら、私の故郷である町庭坂にあるからである。昔から、自分の生まれ故郷を説明するのに、「運転免許センターのそばです」と言うと、大抵分かってもらえる。

1年前になるが、福島県運転免許センターにいき、何回目かの運転免許更新を行ってきた。一番の心配事は、写真の出来栄である。5年間も使う写真である。少しでもよく写りたいと思うのは当然のことだろう。

最近、いろいろなところで、「天下り」の人材に目がいってしまう。運転免許センターも、いたるところに見た感じ60代の方々が配置されている。きっと警察からの天下りである。さすがに「あなたは天下りですか」とは聞かない。

書類を提出し、新しい免許に記載される住所を確認した。私の不安が的中した。住所の番地の数字が間違っていた。60代の方の仕事、老眼、様々な要素から私は「もしかして」と思い、きちんと記載事項を確認したのである。私はやさしく「番地が違いますよ」と返した。すると、その担当者は慌てていた。返って申し訳ない感じがした。

講習時間は30分間だった。多少高圧的な担当者が30分間話をした。こういうときに、私は、その人の話し方、プレゼン力を観察してしまう。さすがに毎日毎日同じ話をしているだけあって、安定感のある話しぶりであった。笑いは一切ない。気が付くと、意外とためになっていた。特に、以下の2つはよかった。

平成20年から高速道路と自動車専用道路では、後部座席もシートベルト着用が義務付けられた。そういえばそうであった。普段は、助手席に妻を乗せるだけだが、週末に娘の関係で高校生アスリート軍団を乗せて高速道路を走るときがあった。気を付けなければと反省した。

次のことは、まったく知らなかったのが勉強になった。平成26年からラウンドアバウトが「環状交差点」となり、徐々に増えていることをご存じだろうか。信号機がない丸い交差点である。ロータリーである。ヨーロッパでは、よく見られる。パリの凱旋門が一番有名かもしれない。それが、日本でもつくられるようになった。福島県にはまだないのでわからなかった。お隣の宮城県にはけっこうあるとのことだった。

皆さん、急に眼前に丸い環状交差点が現れても大丈夫だろうか。動揺しないで運転できるだろうか。時計回りにぐるぐる回るのだが、目的の道路に入れなくても大丈夫である。また1周して再チャレンジすればいい。

たった30分の話だったがよかった。やはり担当者の“いぶし銀”の味だろうか。晴れて新しい運転免許証を手にした私だったが、まずは住所の番地を確かめた。問題の写真はというと、ニコッとしたつもりが、ひきつった顔になってしまった。何せ5年に1回のことだからむずかしい。この写真を5年間見るのもつらい。